

各国のトピックス

女子の機会平等と

児童のデイ・ケア施設の増強

(イギリス)

機会平等委員会のロックウッド委員長の語ったところによれば、「女子は、子供のデイ・ケア施設を利用できなければ、本当の機会平等を享有できない」という。

同委員会の報告によると、「手のかかる5歳未満児や学齢児童に対する現在の施設・措置が全く整備されていないことが、多くの女子の機会を制限している最も重要な要件の一つであろう」とし、機会平等委員会の最近のポリシーとして、デイ・ケア施設を重視している。

5歳未満の児童をもつ母親の3分の2はデイ・ケア施設の利用を希望しているが、デイ・ケア施設を利用している児童は5歳未満児のうちの3分の1にみえない。

デイ・ケア施設の大部分は働く親たちのためのものとはなっていないという。保育所やプレイ・グループ^{*}は、子供たちにとって大きな教育的価値をもつものであるが、これらの施設は終日ケアをしないため母親は家を外にして働きに出ることができない。

「政府は、中央および地方レベルに、デイ・ケア施設の整備にあたる責任官庁を設置し、地方庁とボランティア制度との連携を図るようにすべきである」と、同報告は力説している。

同報告によると、「50万人を超える学齢児童が、放課後の時間を放任されたまま送っている」という。

(註)* プレイ・グループは、母親がなにかの仕事から手を離せない間、単に子供を安全に世話してもらえる場所というだけでなく、子供が建設的な遊びを通して学びとることに力点がおかれる。

The Times, Oct. 11, 1978

国民保健サービスの費用

(イギリス)

本日発表された「保健経済研究所」(The Office of Health Economics)の報告「NHSのコスト」によれば、国民保健サービス(NHS)の費用は今年末までに80億ポンド(現在価格)に達するものと見込まれている。

このことは、ポンド価格の下落に調整しても、NHSのコストが創設以来3倍になったことを意味する。

1944年以來の保健支出は国民総生産(GNP)の3.9%から5.7%に増えている。しかし、豊かな西欧諸国の保健支出はGNPの7%を上まわっている。

病院サービスが依然としてNHS支出の大部分を占めているが、1976年の数字をとれば、1975年の65.8%から63%に減少している。

薬剤費は1975年の8.4%から1976年には8.9%に増えているが、薬剤サービスに支出しているNHSの割合はここ10年間に20%減少している。

家庭医サービスの支出は低下をつづけている。1953年における一般医サービスはNHS予算の約11%であったが、1976年には6%に低下している。総額にして3億8,400万ポンドの支出は、人口1人当りにして9ポンド、1年平均3回ないし4回の診療をうけていることになる。

The Times Oct. 9 1978

(田中 寿 国立国会図書館)